

label Xの活動とXジェンダー の現状

2018/3/25

label X代表 藤原和希

Xジェンダーの現状

2018/3/25

label X代表 藤原和希

目次

1.Xジェンダーとは

2.Xジェンダー当事者の多様性

3. 当事者と医療

4.当事者が社会に望むこと

5.まとめ

Xジェンダーとは？

●言葉の意味

Xジェンダーという言葉に明確な定義はない。

ここでは仮に以下のように定義する。

「性自認が男女どちらでもない、またはそのどちらでもある立場をとっている人々」

●発祥

1990年代後半に関西のクィアコミュニティで使われ始めた。

その後インターネットを中心に全国へ広まったと考えられている。

2.Xジェンダー当事者の多様性

アンケート実施内容

アンケートテーマ：

Xジェンダー当事者団体label XによるXジェンダー当事者の意識調査
(2018年GID学会向け)

対象者：団体の会員か否かを問わないXジェンダー当事者

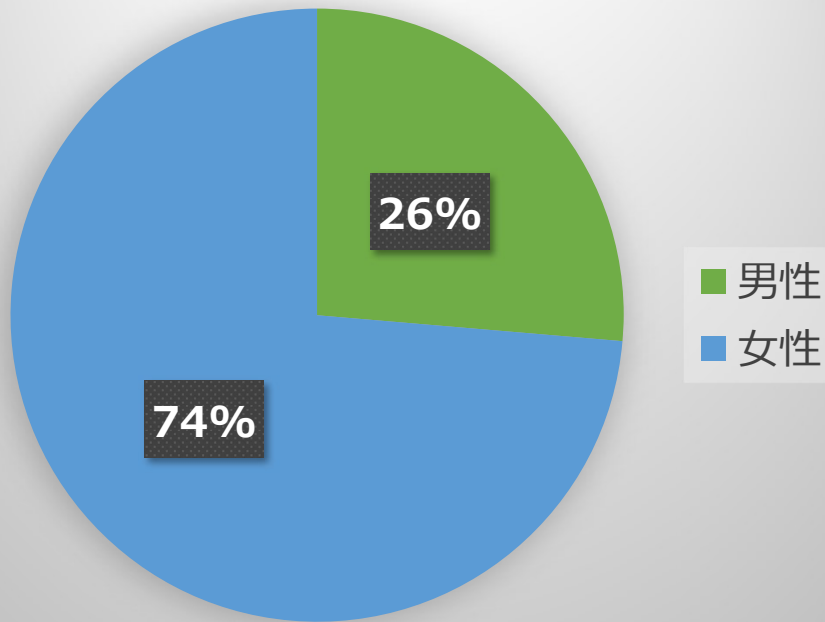
対象期間：2018/2/19~3/11

実施方法：インターネット（Google フォーム）

回答数：148名

アンケート回答者の背景情報

戸籍上の男女比



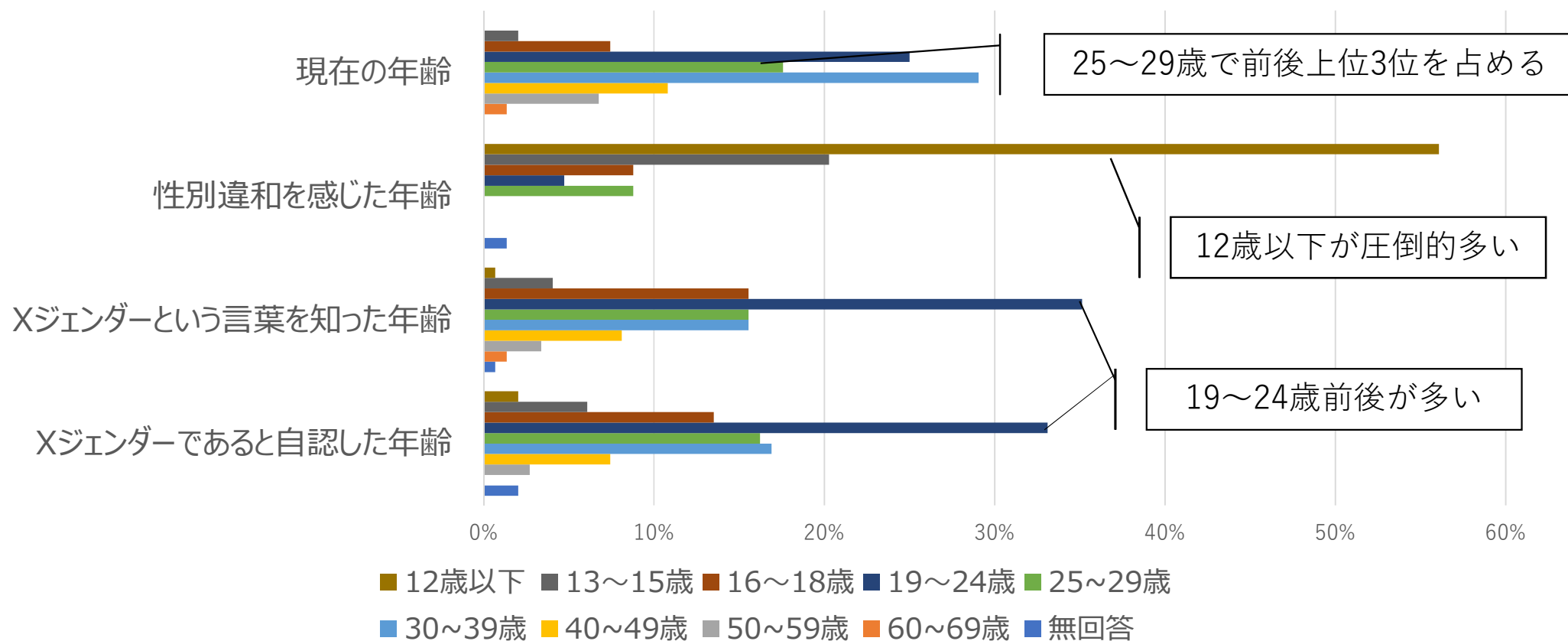
- ・戸籍上の男女比は約 1 : 3。
- ・GID当事者と同様の傾向か？
- ・「女性⇒男性」への戸籍変更者が 2 名

アンケート回答者の居住地

都道府県	人数	都道府県	人数
東京都	28	京都府	5
埼玉県	17	宮城県	3
大阪府	14	石川県	3
神奈川県	12	愛知県	3
富山県	7	兵庫県	3
茨城県	6	奈良県	3
千葉県	6	熊本県	3
北海道	5	岐阜県	2
長野県	5	無回答	2

- ・都道府県ごとの人口の偏りと大差はない模様。
- ・赤字は人口上位 5 都府県（2017年国勢調査）

アンケート回答者の年齢と性別違和の関係



- Xジェンダー当事者の年齢は20歳台前後が中心。
- 多くの人は10代前半で性別違和を感じている。
- Xジェンダーという言葉がまだ普及していないためか、19～24歳と比較的遅くに言葉に出会い、自認しているのでは。 8

“性別違和のきっかけ”と“Xジェンダー自認”

【性別違和のきっかけ】

- ・第二次性徴（生理、身体の変化）
- ・性別に特有の服装への違和感（スカート、背広）
- ・同性への恋愛感情

【Xジェンダーと自認する理由】

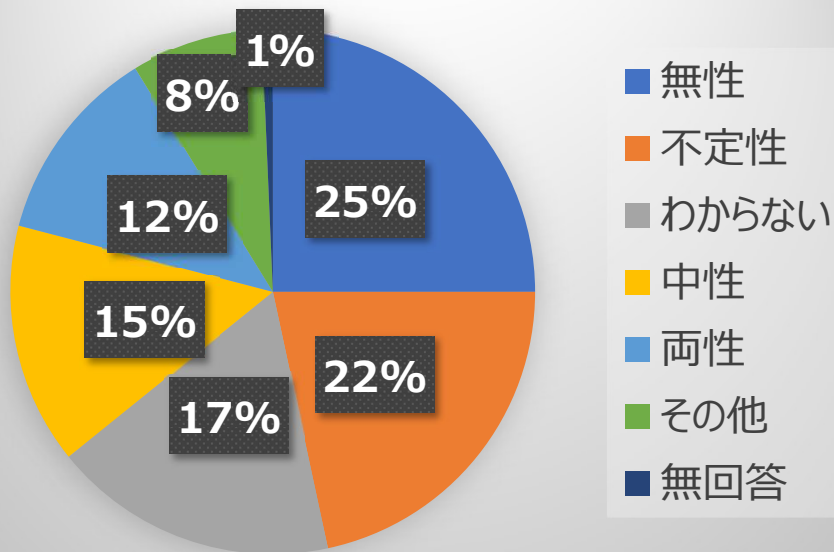
- ・アンケートの性別欄などで、どちらか一方を選択するのが苦痛。
- ・性差のある服装などをきっかけに、性差という概念を自分にあてはめられていることに違和感、嫌悪感を感じる
- ・男女どちらにも属せない、属したくないと思う。

Xジェンダー当事者の多様な性自認

性自認の詳細ないくつかの呼称

本調査における言葉の定義は以下のようにした。

- ・無性（男女のいずれの意識もない）
- ・不定性（性自認が変動する）
- ・中性（男女の意識の真ん中あたり）
- ・両性（男女の意識の両方をもつ）



【無性】

- ・男でもなく、女でもなく、ただ存在があるだけと自認しています。他人についてもそう。
- ・そもそもジェンダー・アイデンティティという感覚がよくわからない。

【不定性】

- ・男性的、女性的、中性など状況や気分で変わる。
- ・何でもいから心の性別が確定してほしい。揺れないでほしい。

【中性】

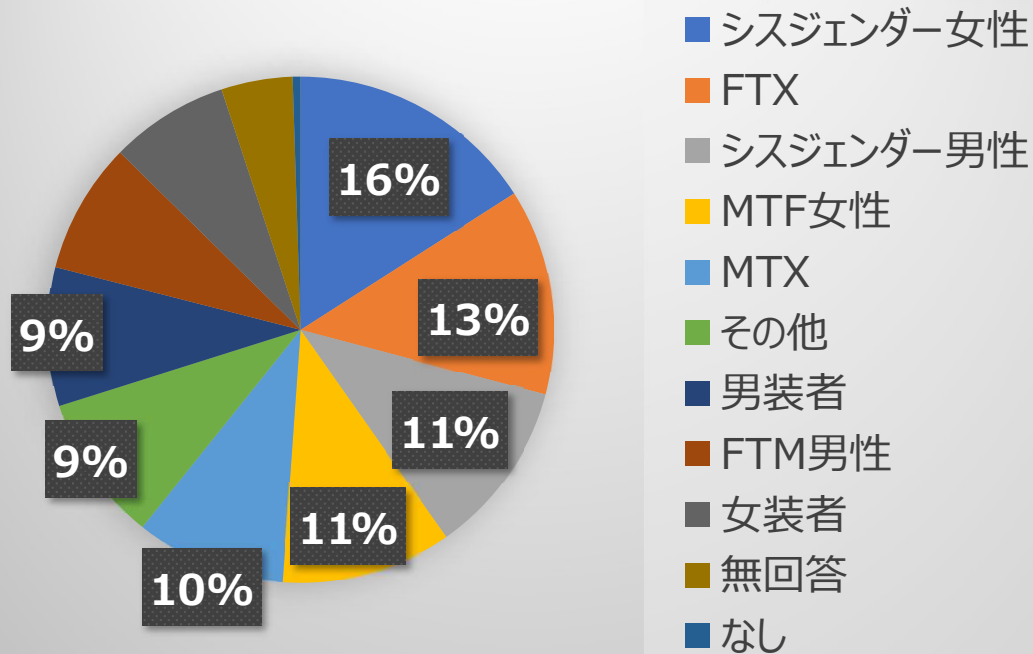
- ・心は女性であり男性でもある
- ・男性でも女性でもあるがゆえにそのどちらにもなりえない。

【両性】

- ・男でも女でもある自分。
- ・体は女性のまま(中略)一見男性にも見えるような自分でありたい

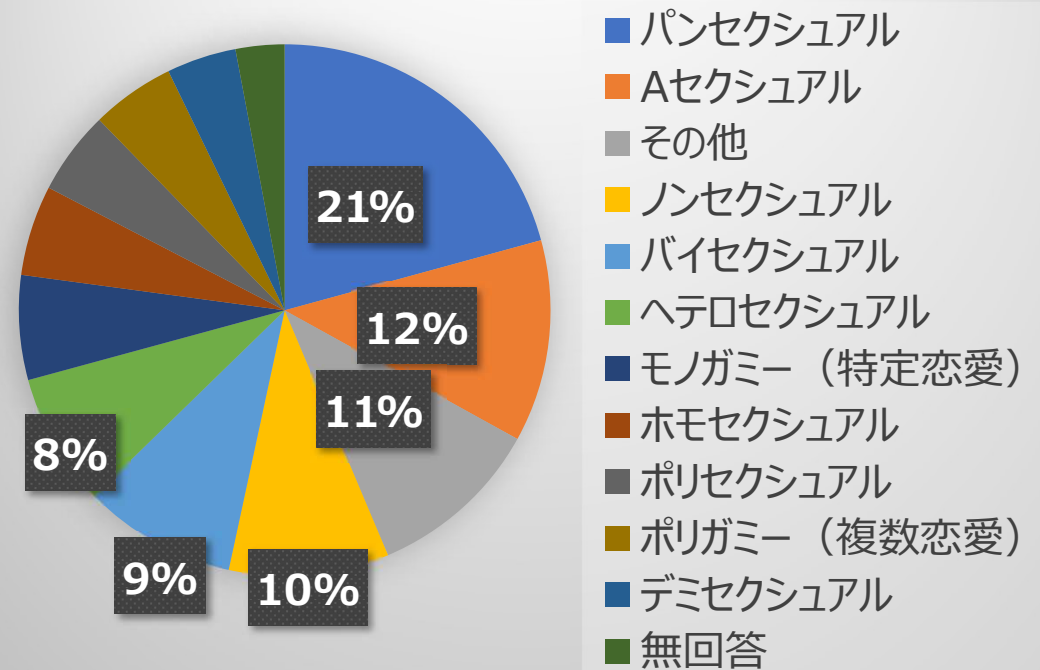
Xジェンダー当事者の多様な性指向・性質

あなたの性指向はどういった性自認・性表現の方
に向きますか？（複数回答可）



- 大きな差がつかず多様だが、女性に近い人が多い傾向
- その他の中には「性別は関係ない」という記載も多い。

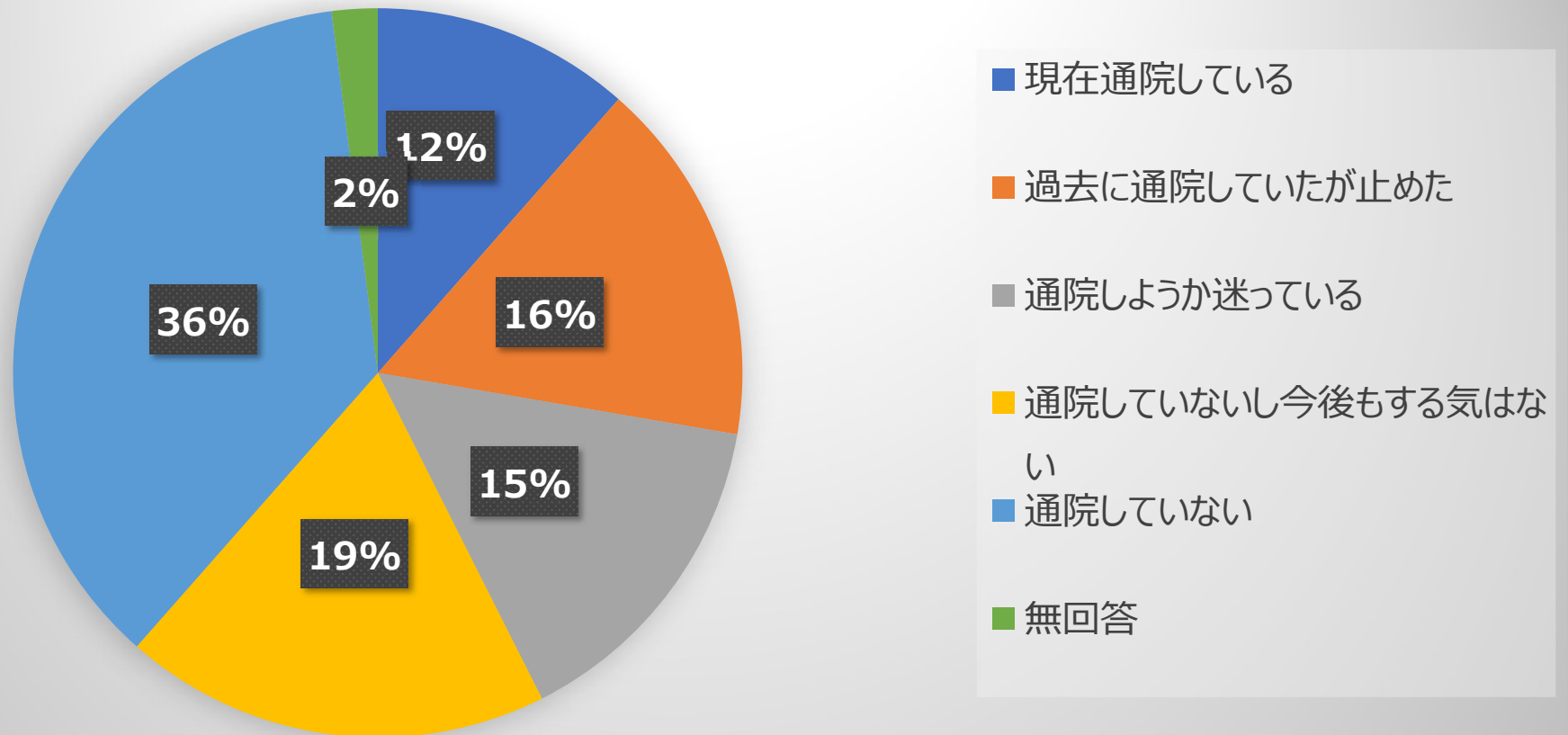
あなたの性指向はどういった性質ですか？
（複数回答可）



- パンセクシュアルとAセクシュアルの毛色の異なる指向が上位
- この中のいずれにも当てはまらない「その他」も多いのも特徴か
- 所感だが、性別を重要視せずに人を人として見ている傾向か

3.Xジェンダー当事者と医療

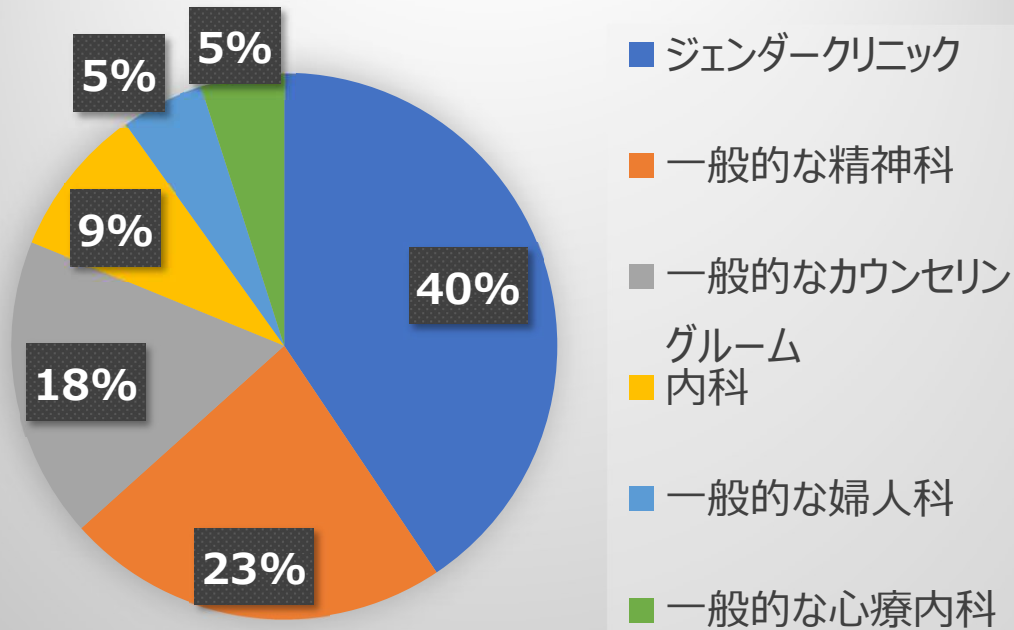
現在、性別違和を理由に通院しているか？



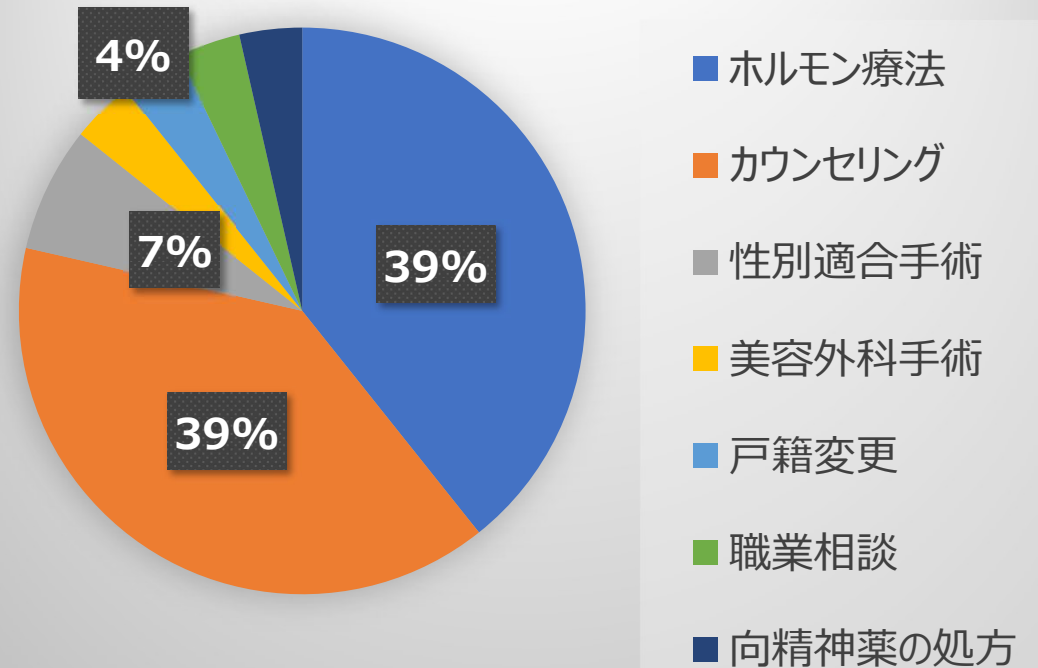
- ・現在通院しているのは1割強（17名）程度で、その他の9割弱は通院していない。
- ・通院していない群のいずれのカテゴリでも、理由は「病院に行って解決することではない」、「悩んでいない」の2点で50%以上を占める（精神的にも身体的にも医療を必要としていない？）

性別違和による通院状況

通っている医療機関は？(複数回答あり)



通院している理由(複数回答あり)



- ・Xジェンダー当事者が通院している医療機関はジェンダークリニックが最も多い（17名中9名）。
- ・通院している理由はホルモン療法が多いが、同数でカウンセリングの需要が高いことが分かる（各17名中11名）。
- ・カウンセリングを必要としている方々は、強い身体違和を伴わない生きづらさを感じているものと思われる。

Xジェンダー当事者が医療に望むこと

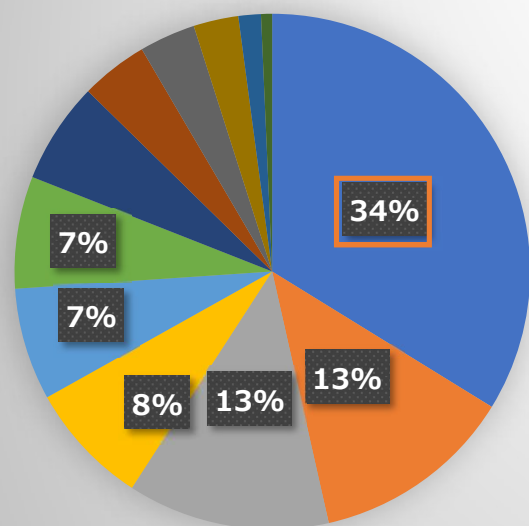
当事者の声

- ・反対の性別に移行することを希望しないXジェンダー当事者であっても、身体的治療が必要な人がいれば対応するようなガイドラインを作って欲しい。そうすればXジェンダー当事者でも安心して医療機関に相談に行けるようになると思う。

- ・医療の場では男女の区別が必要なことがあるのは重々承知だが、医療従事者にも様々なセクシャリティがあることを認知して頂いて、問診など工夫されるとより快適に医療へアクセス出来ると思う。

4.社会に望むこと

Xジェンダー当事者が社会に最も望むこと（1/2）



■ 女らしく、男らしくを要求しなくなって欲しい

■ 冠婚葬祭や制服などスカートやスーツなど男女で区別する服装でなくともよく欲しい

■ Xジェンダーという存在を知って欲しい

■ 自分をXジェンダーとして扱ってほしい

■ 性自認や性指向について学校でもっと教育を受ける機会を増やしてほしい

■ この世から性別という概念をなくして欲しい

■ 職業や仕事上の業務で可能な限り男女の差をなくして欲しい。

■ 多目的トイレをもっと増やすなど、社会生活で使う施設などの男女の垣根をもっとなくして欲しい

■ 公的証明書やアンケートなどを含め、不必要な男女の記載をなくしてほしい

■ 社会を無理に変えてほしいとまでは思わない

■ 無回答

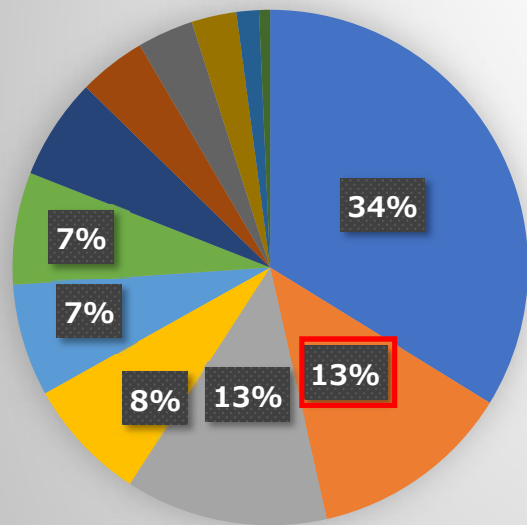
■ 社会には何も望まない

当事者の声

・人間的に素晴らしいとされる良い部分をたくさん持っているのに、社会からの性役割の概念で「この人はおかしい、変だ」と言われて、その人の良さすら見えなくなることは、それこそおかしいこと。

・今の自分が生きやすく、かついわゆる「男女差別」を(身体的な区別以外)解消できる一番の理想的な選択肢だから。

Xジェンダー当事者が社会に望むこと（2/2）



- 女らしく、男らしくを要求しなくなって欲しい
- 冠婚葬祭や制服などスカートやスーツなど男女で区別する服装でなくともよく欲しい
- Xジェンダーという存在を知って欲しい
- 自分をXジェンダーとして扱ってほしい
- 性自認や性指向について学校でもっと教育を受ける機会を増やしてほしい
- この世から性別という概念をなくして欲しい
- 職業や仕事上の業務で可能な限り男女の差をなくして欲しい。
- 多目的トイレをもっと増やすなど、社会生活で使う施設などの男女の垣根をもっとなくして欲しい
- 公的証明書やアンケートなどを含め、不必要な男女の記載をなくしてほしい
- 社会を無理に変えてほしいとまでは思わない
- 無回答
- 社会には何も望まない

当事者の声

・例えば本来なら楽しいはずの知人の結婚式でも、自分が性自認と異なる服装をしているだけで内心全く楽しくなくなる。

・Xジェンダーが身体上の性別と違う服装をするのは、シスジェンダーの男性が男性の服装をすること・シスジェンダーの女性が女性の服装をすることと同じことなのだと理解してもらえる社会になったらいいなと思う。

まとめ

Xジェンダーという、自らを男女どちらでもない、またはそのどちらでもあると自認している人たちがいる

その人たちは一人ひとり多様な性自認や性指向をもっている

中には心身ともに、一人の人間として医療の助けを求めている人たちも一定数いる

Xジェンダー当事者が生きやすくなるためには、もう少し性別にとらわれず「一人一人と向き合う」社会になってほしい

そしてそれはXジェンダーだけでなく皆が暮らしやすい社会になるはず

ご清聴ありがとうございました